会員のひろば

北海道医報では、特定の個人・団体を誹謗、中傷する内容等を除いた幅広い多様性のあるご意見を掲載させていただいております。

サブスクよりCD、BD派

岩見沢市医師会
岩見沢市立総合病院
上村（かみむら）　明（あきら）

最近は音楽や映像配信はサブスクリプション（サブスク）が流行しています。サブスクは定期購読、会費が語源で、定額料金で利用する権利を購入するという意味です。メリットは一定の金額で音楽や動画が聴き放題、見放題です。スマホやパソコン、タブレットがあれば、自宅や外出先でも利用できます。デメリットは複数登録すると費用がかさみ、利用しなくても支払いが発生し、解約すると手元に何も残らないことです。利用率は20代で70％、60代で30％という統計もあります。

60代になった私はやはり手元にソフトを残して置きたいので、時代の流れに逆行してCD、BD派です。

音楽はレンタルCDから、パソコン内に取り込んでいます。以前iTunesを使用していましたが、ベスト版などは時々700MBを超え、CD１枚に収まらないこともあり、昔のWindowsソフトのRoxioを使用しています。CDのレーベル面もインクジェットプリンタで印刷し、ジャケットも印刷してCDケースに入れており、CDの雰囲気は出ています。少し前の自動車のカーオーディオにはCDプレーヤーがついており、HDDやSDカードに取り込んで聴いていました。最近の自動車にはそのようなものがなく、スマホなどからBluetoothを使用して聴くようになっており、私はスマホに音楽を入れて聴く習慣がないので、非常に不便です。仕方なく、最近は車ではFMを聴いています。レンタルCDの需要が少なくなったのか、私の住んでいる岩見沢市は数年前にTSUTAYAが撤退し、GEOしかありません。新作はそこで借りていますが、TSUTAYA DISCASに入会し、レンタルCD店にない70～90年代のCDを借りています。70～90年代の音楽はリバイバルで人気が出ているものもあるようです。

映像はTV or スカパーから録画しています。地デジ前はDVDレコーダーに録画していましたが、容量も多くなり、解像度も上がり、地デジ後はBDレコーダーに録画しています。CMカットをし、BDにダビングしていますが、NHKはCMがないので、編集が楽ですね。民放でもレコーダーの方でCMを区切ってくれるので、便利です。モードはLSRのロングモードにして容量を抑えて、HDDの使用量を抑えています。スカパーは通常のTVでは放送しなくなった昔の番組を一挙放送してくれるので便利です。BDもCASIOのNAME LANDでディスクのレーベル面を印刷し、ケースの背にも題名を印刷したテープを貼って分類しています。

TVは数年前にFull HDから４Kに変えました。解像度が高いので、通常の番組もきれいに見えます。4K番組は通常のSDモードでは容量が多いので、LSRにし、容量を少なくしてダビングしています。通常BDレコーダーからBDへのダビングは高速で数分で終了します。

CD、BD派は手元にソフトを残して置けますが、保存場所を確保するのが大変です。CDケースは薄型や薄型２枚組ケースを使用してCDボックスに保存しています。

ノートパソコンも最近は内蔵ドライブなしが主流です。私のメインのパソコンは2016年製の中古Mac BookPro（13 inch）を据え置きでクラムシェルモードにし、28型のモニターに映して使用しています。最新のOSは適用外ですが、CPU Intel Core i7、SSD １TB、メモリ16GBとスペックもよく、全く故障もなく、問題なく使用できています。MacはiPhoneとの相性は良いのですが、円安の影響で最近高額で、SSDやメモリも後で変更できず、５年で最新OSに移行できなくなり、ちょっと不便です。

サブのパソコンはモバイルBD派です。Windows10まではTOSHIBAのdynabook R73、83やRX73シリーズの内蔵BD付きを使用していました。Windows11以降はintel ８世代以降でないと更新ができないので、Panasonic Let's note SVやLVシリーズが良いです。ヤフオクでは内蔵ドライブなし、内蔵DVD付き、内蔵BD付きがありますが、内蔵BD付きは流通量も少なく、あっても高価です。内蔵DVD付きを安価で購入し、内蔵BDを別途購入し、内蔵DVDと交換し、無料のLeawo Blu-ray Playerをダウンロードすれば、BDが使用できます。このソフトはMacでも利用できます。Windows７時代は外付けドライブでTVからBDに録画した番組をパソコンで見ることができなかったのですが、Windows10以降は閲覧可能です。内蔵ドライブの無い薄型軽量のパソコンに外付けドライブを付ける方法はありますが、重量は重くなります。

ちなみに本や雑誌も買って読む派です。やはり手に取って見る方が臨場感が違います。

本や雑誌、映像は見ていないものも多数あります。保存するだけで満足するのかもしれません。

段々保存場所が限られてきており、今後、場所の確保が課題です。

悲惨な戦争体験・・・疎開

札幌市医師会
新札幌パウロ病院
高階（たかしな）　俊光（としみつ）

小生も後期高齢者の仲間入りの年齢になってしまい、人生を振り返って高校卒業以来、50年以上付けている日記を読み返していたら、疎開の話が出てきました。

1945年（昭和20年）終戦の３か月前、長女のお袋17歳（昭和３年生まれ）、次女の叔母８歳（昭和12年生まれ）と三女の叔母５歳（昭和15年生まれ）の３人が母親の実家の青森県五所川原市に疎開した記述がありました。

終戦近くになってお袋の実家の室蘭市の輪西町にも艦砲射撃があり、山の麓の防空壕に２回逃げ入った。お袋の母親はこれからも続く艦砲射撃に５人の子供を連れて逃げるのは大変だからと、青森の農家の実家に娘３人の面倒を見てくれと手紙を書いて３人を疎開させたのである。青森の実家では母親の両親は健在であったが、母親の兄が実権を握っていた。お袋は農家を手伝っていたが、その兄から歓迎されなかった。次女は学校に入っていた。

両親は兄である長男を跡取り息子と猫可愛がりして育て、息子もその気になって自分ほど偉いものはいないと横柄に育って、天下を取ったような振る舞いで妹の母親にも暴力（今でいうDV）などで心身とも辛く当たっていた。これは母親が離れて室蘭に来た大きな原因の一つでもあった。両親も腫れものに触るような扱いで遠慮していた。

両親はとてもいい人で、お袋ら３人は孫だからとても優しく可愛がってくれたが、兄はお袋たち３人を毛嫌いしているのを17歳のお袋は感じ取っていた。両親は兄に隠して味噌をつけたおにぎりをそっとくれて、納屋に隠れて本当に美味しくておいしくて食べたこともあった。

母親もお金に困っていて、兄への送金も滞っていた。それで三女はまだ小さいし、汽車賃もかかるので、三女を置いてお金を少しでも工面してもらうために室蘭の輪西に行こうと、お袋は次女を連れて２人で朝早く五所川原から汽車に乗って青森駅に向かった。その途中、艦砲射撃が２回あり、汽車が止まって草むらに逃げ隠れた。運よく汽車は無傷で済んだ。やっとの思いで青森の連絡船乗り場に着いたと思ったら、艦砲射撃で火の手があちこちで上り燃えていた。もちろん連絡船は出航できず、仕方なく待合室で過ごそうとしたら、さらに艦砲射撃は激しく青森駅を標的にして攻撃してきた。皆逃げてくれ・・・とアナウンスがあり、駅の近くに５人くらいしか入れない小さな防空壕が10個ばかりあり、そこに逃げ込んだ。その防空壕も攻撃の対象になり、隣の防空壕をはじめ、幾つも燃えていた。しっかりと閉まらない入口のドアの隙間から、何機もの爆撃機が次から次と低空飛行でやってくるのが見え、ババーンと機銃掃射である。耳が破裂するくらいの爆音で、みんな耳を抑えていた。地震のように激しく揺れて、もう駄目だと思って頭を抱えていた。運よくお袋たちの所には当たらなかった。隣の防空壕をはじめ、さらに多くの防空壕が燃えていたが、お袋たちはそれどころではなく、ここから一刻も早く逃げ出すことしか頭になかった。もう命はないと思った。

やがて戦闘機が去って一瞬静けさが戻り警報解除になったが、またいつ攻撃が来るかもしれないからとにかく一刻も早く離れて逃げてくれと駅員のマイクが叫んでいた。お袋たちはとにかく五所川原に戻ろうとしたが、道は分からず仕方なく線路伝いに歩いたのである。夜になり、お腹が空いて２人は農家の所に行って、水を飲ましてくださいとお願いしたところ、おにぎりとキュウリ２本をいただいた。何とかお腹を満たして再び歩いて途中の駅で五所川原へ向かう汽車が出発すると知り、線路から汽車に乗ってようやっと五所川原駅に着いた。夜中だったけど８月だから寒くはなく、そこで一晩過ごした。夜が明けてうわさを聞いたいとこが馬車で迎えに来てくれ、それに乗って実家に向かった。戦闘機は五所川原にもやって来て、その度に防空壕に逃げた。青森で隣などの防空壕があれだけ燃えていてよく生きられたと思う、と後で次女は述懐している。

そのころ室蘭にも死者約400人が出たイタンキ浜からの艦砲射撃があった。山の麓に作られた防空壕に避難する際に、皆がどうぞどうぞと言って議員さん、名士の人や金持ちの人たちを安全と思われた奥の方に導き入れた。私の祖父母家族の４人を含む貧乏の人たちは、危険な入口の隙間だらけのドアのそばにしか居場所がなかった。隙間から何機もの空爆している戦闘機が見えていた。本格的な艦砲射撃が始まると、地震のようなもの凄い地響きが続いて、山は激しく揺れて奥の方から大きく崩れ、奥にいたお偉方さんや金持ちの人たちがのみ込まれて多くの死傷者が出た。真っ暗な中でも轟音と人のざわめきで何が起こったかすぐにわかり、入口にいた祖父母らは戸を開けて逃げることができた。貧乏人が故に命だけは助かったのである。人生、命までも何が幸いするかわからない。私の祖母はこの話を何度もして聞かせてくれた。

この室蘭の艦砲射撃で多くの死者が出た。輪西の実家の斜め向かいに、私も小さい時に祖母に手を引かれてよく見に行ったことのある映画館『大黒座』は大きな建物だからと、沢山の死体が運び込まれて安置されていたと後になって聞いた。

防空壕といえば、子どもの頃富士製鉄（今の日本製鉄）の社宅街の中にも、細長いウナギの寝床のような奥まった防空壕があった。２度入ったことがあるが、当然中は真っ暗で当時じっと身を潜めて寄り合っていたことが容易に想像できた。

もう80年、半世紀以上前の話です。日本人の平均寿命が50歳を超えたのは昭和22年（1947年）です。小生は昭和25年（1950年）生まれで、小生にしたらちょっと前の話ですが、今の若者にとっては歴史です。

時の流れは早いですが、こういう時代もあったと今の人たちの頭の片隅にでも刻んでいただければ、こんな嬉しく幸いなことはありません。

小児科医の独り言

札幌市医師会
宮の沢小池こどもクリニック
小池（こいけ）　明美（あけみ）

なんとなく「小児科医になろうかな」と思い、私の医師生活が始まりました。しかし、実際の医療現場では血管確保や気道確保を自分で迅速に行わなければ､赤ちゃんの命を救えないという現実に直面し､「やっぱり私には無理かな」と諦めかけたこともありました。また、当時は当直明けの翌日も何事もなかったかのように働くのが当たり前の時代で、さらに入院患者さんは原則として自分で毎日診察し、学会などで札幌を留守にする以外は、日曜日も病院に足を運びました。これは小児科医としての“尊厳”だったのかもしれませんが、50歳になった頃､「もう勤務医は私には無理」と思い、札幌市西区に小児科医院を開業いたしました。

それからは自分のペースで仕事を続け、休日当番以外は暦どおりにお休みをいただけるようになりました。そして10年ほど前からは土曜日を休診にし、さらに５年前からは同期の先生に週２日の外来をお願いして、なんとか50年近く小児科医を“楽しみ”ながら続けています。診療に少し余裕ができたからでしょうか、この頃は赤ちゃんがいっそうかわいく思えてきました。

生後１か月くらいになると、赤ちゃんの目には、目の前のものがはっきり見えるようになります。たいていの場合、一番最初に目に映るのはお母さんの姿で、そのお母さんを一生懸命目で追う姿はなんとも愛おしいものです。数か月くらいたつと、赤ちゃんは「目の前にいるのは､大好きなお母さんかな？」とじっと眺めて識別し､「あれ､お母さんじゃない！」とわかった瞬間､「わーん！」と泣き出します。このなんとかわいいこと！　思わず「これがあなたの人生の始まりよ」と､しみじみと眺めてしまいます。

さらに知恵がついて、自分のいる空間も理解するようになると､「ん？　ここはおうちじゃない。変だぞ」とお母さんにしがみつくようになります。そして、予防接種を受けたことのある子などは「ここは痛いところだ」とお母さん（最近はお父さん）にしっかりしがみつき､「帰る、ママ！」と泣き叫ぶようになったりしますが、これもまたなんともかわいいものです。小児科医としては、赤ちゃんが「保護者は自分を守ってくれる存在だ」と認識していると思い、まずは安心して診療にあたります。

そんな大切な赤ちゃんとお母さんやお父さんとの人間関係に、最近では人工的なAIといおうか子育てアプリとかが入り込んできています。「いないいないばあ」は、父や母、祖父母等が顔を隠し、数秒後に手を放し、その顔がぱっと現れると、赤ちゃんは「いなくなったと思ったら、いた！」と大喜びし、親たちはその笑顔を見たくてついつい何回もします。その「いないいないばあ」のアプリなんかあって、赤ちゃんがスマホの画面に笑うんです。確かにかわいいのですが、小児科医としてはとても恐ろしく感じます。スマホの画面の顔を「自分と親しいもの」｢心地よい刺激をくれるもの」と認識しているんです。純粋無垢な赤ちゃんの脳に人間以外の人工物を親しい存在と認識する情報が組み込まれてしまったら、その後の脳の発達はどうなるのでしょうか？　例えば、生まれたばかりの犬の子が猫に育てられると、本来の犬らしい行動が変化し、猫のように高いところに登ったり、猫特有の「伸び」をするようになるようです。だとすると、脳に人間とAIの認識が“キメラ”のように入り込んで発達した赤ちゃんは、手塚治虫さんのロボットのように､「この感情はなんだろう」と悩んだり､「人間になりたい」と思ったりするようなことはないのでしょうか。

大正生まれの母は、ボタンの世界からタッチ画面の世界に移り、ATMの操作もエアコンの使い方もどんどん難しくなっていきました。そして今、私も取扱説明は電話相談ができなくなり、メールでの問い合わせになり、チケットのない飛行機に戸惑いながら生活しています。今年はとうとう後期高齢者の仲間入りです。団塊の世代のしっぽです。介護の人手不足が深刻な中、私の時代には、介護もAIのお世話になるのだろうと、少し恐れています。アップルウォッチのようなものをつけて、画面をタッチすると、私好みの“いい男”のAIが枕元に現れて､「小池さん、おはようございます。今日も血圧は大丈夫ですよ」と言ってくれて毎日が始まるのでしょうか。さらに「小池さん、そろそろどうでしょう」と言われてスイッチオフで「おしまい」――そんな日が来るのかもしれません。考えようによっては、それもスッキリして良いのかもしれません。

でも、人間の中で育ってきた私としては、赤ちゃんには人間として悩み、考え、生きてほしいと願っています。どうか皆さん、赤ちゃんはせめて自我が芽生える３歳くらいまでは、アプリではなく、人の手と目と声で慈しんでいただけませんか。純真無垢な赤ちゃんの笑顔に支えられ、私は50年、小児科医を続けてきました。この“人間の赤ちゃん”の笑顔を、私たちの手でしっかり守りましょう。明日からも、ぎゃんぎゃん泣いている子どもたちを「かわいいな」と思いながら、診療を続けていきたいと思っています。

函館本線・仁山駅

函館市医師会
函館市医師会健診検査センター
水関（みずせき）　清（きよし）

JR北海道のダイヤ改正によって、2026年３月14日に廃止される函館本線・仁山駅は、明治政府が進めた北海道の近代化の枢軸となった鉄道敷設の歴史を濃厚にうかがわせる景観の中にある。前身となる仁山信号場の設置は1936年９月15日のことであるが、函館本線自体は1902年12月10日に函館―本郷（現・新函館北斗）間で開業し、1903年６月28日には軍川（現・大沼）経由で森に延伸されていることから、不測の事態に備えるという意味合いを持つ信号場なしで、大野平野から大沼湖畔に至る20‰という急勾配区間を昇り降りするという過酷な環境の中に、鉄道が敷設されたのである。

ここで日本の鉄道について振り返ってみると、1872年10月14日の東京・新橋―横浜間・約29キロでの開業を嚆矢として、1877年２月５日の神戸―京都間がそれに続いた。1880年11月28日、北海道で国内３番目として手宮―札幌間に鉄道が敷設されたのには、明治政府が推進した殖産興業政策の一環としての意味合いが強く、1882年11月13日には手宮―岩見沢―幌内間が全通し、幌内炭山の開発と鉄道による石炭輸送が進められた。1892年11月の段階で炭鉱と港湾とを結ぶ鉄道路線は、手宮―幌内（幌内線）、岩見沢―空知太および砂川―歌志内（空知線）、岩見沢―室蘭および追分―夕張（室蘭線）が整備され、空知・夕張の各炭鉱の産出炭を、手宮・室蘭の港湾から積出すルートが確立された。

1875年に始まった屯田兵制度等によって道内の人口は急増し、その移動を支える鉄道網の拡充も進んだ。1905年８月１日には函館―札幌間が鉄道によって結ばれ、鉄道国有化後の1908年３月には青森―函館間の航路も国有化され、本州―北海道の輸送体系が確立した。北海道の「炭鉱」、採掘された石炭を輸送した「鉄道」、その石炭を使った「鉄鋼」、本州に運ぶための「港湾」を複合的にとらえたストーリーは、文化庁日本遺産「炭鉄港」として2019年に認定された。

同じ頃本州では、高品質な生糸の集積センター・前橋と貿易港・横浜との間を、鉄道で直接結ぶ計画が進められ、1883年７月に上野―熊谷間、翌年、熊谷―高崎―前橋間が開業した。そして、江戸開府当時は海や沼地だった上野―新橋間を避け、山あり谷ありでかつ遠回りでもあるが、困難を覚悟のうえで建設を始めた品川―新宿―赤羽間の山手線が1885年３月に開通して、前橋―赤羽―新宿―品川―横浜という生糸輸出を支える鉄道路線が確立された。「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、2014年に登録された世界遺産である。

明治から昭和初期にかけて、関東以北で最大の都市・函館は、北海道・本州間の物流と人の移動の観点から見た結節点であった。函館―小樽間の鉄道建設は、私鉄の北海道鉄道によって、函館側からと小樽側から着工され、1902年12月に函館―本郷間と蘭島―然別間が同時に開通した。以後断続的に開通を重ねて1905年８月の高島（現・小樽）―小樽（現・南小樽）間を最後に全通し、1907年７月に国有化された後の1909年10月に全線が函館本線になった。

1903年に仁山地区を通る鉄道が建設された後、仁山駅の前身となる仁山信号場が設置されたのは前述したように、33年後の1936年のことである。その構造はスイッチバック式の信号場であったが、設置の背景に、大正末期から昭和初期にかけての北海道では、最重要列車としての樺太連絡を担う函館桟橋―稚内港間（急行区間は滝川まで）列車の位置付けがあったと思われる。それら急行１・２列車は、SLが牽引する長大編成で、２等車や２等寝台も連結されており、大沼湖畔への上り勾配を確実に克服するための信号場設置だったと考えられる。1930年10月のダイヤ改正で、函館桟橋―稚内港間の所要は、18時間02分にまで短縮されたという。

さらに７年後の1943年になると、函館方面からの下り線側に“加速線”（大沼湖畔に向かう上り勾配へと出発する際に、一旦バックして勢いをつける）を付帯するために、構内の改良が図られ、1944年には信号場舎を現在の仁山駅舎の位置に移転させるとともに、仮乗降場として旅客扱いが開始された。この際に仁山駅への取付道路建設に必要な土地を提供したのが大道寺小市医師であり、その顕彰碑が、駅舎建設のはるか後年にあたる1997年になって、JR北海道名で駅舎の隣接地に建立され、現存している。

顕彰碑の裏面には、小市氏（1885-1945）の三男・小三郎氏（1925-2005）による補記が刻まれている。それによれば小市氏は、山形県長井町五十川の生まれで、医師免許取得後、東大病院などを経て、1924年に日高の静内地方で開業し、自らが経営する病院のほかに、別棟としてあったアイヌ民族の病院の院長も兼ねて医療に奔走し、「日高の赤ヒゲ」と呼ばれていたという。1927年に留学したスイスのベルン大学で医学博士を取得後、帰国。1931年には函館市若松町で診療所を開設し、1940年には、新川町で20床の病床を備えた大道寺病院となった。そして、函館を一望できる仁山の地に24ヘクタールという広大な土地を求めて、西欧に範をとった結核サナトリウム（療養所）建設を構想したが、終戦の年に発疹チフスに感染して他界されたことが記されている。補記を認めた小三郎氏は、みちのく銀行（現・青森みちのく銀行）頭取としてロシアに積極的に進出するなど、他行とは一線を画した経営手腕を発揮した銀行家として知られる。

仮乗降場となった仁山駅は、その後1947年、1950年、1952年と３度にわたる駅昇格運動を経て、1987年の国鉄民営化時に、JR北海道の旅客駅となった。国道５号線に接続する道道96号上磯峠下線から仁山駅方面への分岐点には、現在でも「ニヤマレジャーセンター」と大書された案内塔が残り、そこにはスキー場、温泉ホテル、キャンプ場、遊食広場などの付属施設が掲示されている。往時茫々の「ニヤマ高原」なのである。

バケツと生成AI

滝川市医師会
滝川市立病院
松川　雅則（まつかわ　まさのり）

昔、モーガン・フリーマンとジャック・ニコルソンが共演した「The Bucket List」という映画を観ました。題名は「List of Things to do Before I Kick the Bucket」の略で、死ぬまでにやっておきたい事柄のリストです。“バケツを蹴る”という表現がなぜ死を意味するのかは、屠殺した動物を吊るす梁をbucketと呼び、今際の際に動物が足をばたつかせる（kick）ことに由来するとか、首を吊る際にバケツを足台に使用し、それを蹴ることで事を成し遂げる、など諸説あるようです。秀逸なコメディドラマで20年近く前の公開ですが、“バケツリスト”という言葉が心奥に沈殿し、折に触れ浮上して、何をリストに載せようか考えてみることがあります。

しかし、やってみたいことはたくさんありますが、その中でどれを他より優先して叶えるのか決めきれないのです。ネットで検索すると、おびただしい数のアイデアがリストになっています。いずれも楽しそうですが、単なる淡い歓楽的体験に終わるか、深い達成感をもたらすかは個人の価値観によるのでしょう。終わりが意識されないと決められないものなのかも知れません。深く考えずに、やりたいことをやれる順番にやっていくのが正解の気がしています。当面、リストが空欄のままでいるのは、実は幸せなことなのかもしれません。

さて、生成AIが身近になって久しいです。実は、冒頭のバケツを蹴るという言葉の由来を調べるのにも使用しています。自分の専門外の分野での常識を調べる時に重宝しますが、そこまで言い切ってよいか不安な回答もあって、大事なことは裏付けを取るようにしています。年甲斐もなく続けている研究の論文執筆やたまに来る査読依頼などで、自分の考えや英語が適正なのか確認するためにも利用しますが、もう不可欠の存在になっています。

試みに、そのAIに向かって、あなたのバケツリストは何ですか？と入力してみました。その応えは、「考える人が、より正確に・より自由に・より誠実に考えるための“道具”であり続けること」でした。あまりに出来過ぎの回答で、私の入力する内容が低レベル、つまり不正確・考えが偏り・不誠実なので、ちゃんとしなさいよと、暗に諭しているのではないかと勘繰りたくなります。そもそも、この駄文も最初からAIに書いてもらったらもう少しましだったかもしれませんが、そうだと悲しいので試さないでおきます。

垂寿のつぶやき

北広島医師会
北海道北広島西高等学校
戸田　博豊（と　だ　ひろたか）

垂寿になった。70代なんて！と軽く考えていたが、坂道がキツイ。足腰が立たなくなってきた。目と耳は云うも更なり。歯はガタガタ。老人性の誤嚥も実体験するようになり、舌咽神経もうまく機能していない気がする。水は危ないが酒は大丈夫だ。認知症も出始めたかもしれない。母は90歳であの世に往く前は、昔の古い記憶が今現に進行しているかの如くに話していた。私はフンフンと相槌を打って聞き流していた。誰にも迷惑のかかることではなかった。歩けなくなって車椅子生活だったので、徘徊することはなかった。90歳であの世に往ったが、今は43回目の人生を始めている。あの世にいたのは５年間位。短い。

私は物忘れがひどくなってきた。外に出る際、アレを忘れた、コレを忘れたと往きつ戻りつしている。この部屋にやってきたのは？何の用事であったのか？鍵を締めないと！鍵はどこだ？どこだ？手に握っているじゃないか！！測ってみたら海馬が縮んでいるようだ。運転していたら、今、ここはどこを走っているのか？と思うこと度々ある。私は徘徊の可能性があるかもしれない。

恩蔵絢子の著書「脳科学者の母が、認知症になる」では認知症の進行具合が詳しく書かれている。私は、次はどのような症状が出てくるのだろうか？今の認知症は薬だけで治る病気ではない。今、新たな治療法の研究開発も進められている。アメリカの大学が40Hzの周波数を患者に聞かせると、脳波がγ波となって、認知機能低下が防げるということを発見している。

今、私は病院を辞めて自由の身だ。御縁のある人だけ相談を聞くことがある。朝の４時頃電話、めまいがひどくて今、ゲーゲー戻しているという人。昨日から頭が痛くて起き上がれないという人。会社に行けない人。学校に行けない人。

長い間、病院通いをしていても、医者に診てもらっていても病気が治らない。となると気が滅入ってくる。うつになってくる。眠れなくなる。こうなった人は数多く居る。中野信子の著書「科学がつきとめた『運のいい人』」は、素晴らしい本だ。読めば診療の役に立つ。

「間」：休みから熟成タイムへ

札幌市医師会
札幌清田病院
後藤（ごとう）　義朗（よしろう）

昨秋、全道中学校英語暗唱大会を見学した。出場者は教科書の数ページ分を暗唱して発表するが、まさに「読み聞かせ」だ。話の中核では音の強弱、高低を変え、また、話し言葉が入るとその役柄となる。発音は日本人が苦手なＬとＲの使い分け、Thの発音がチェックされる。筆者も徐々にのめり込み「にわか審査員」になった。また、話すスピード、文章と文章の区切りでの「間」の大切さを実感した。聴衆は日本語脳で英語を処理するために時間が欲しい。できれば自分の頭を英語脳に切り替えてそのまま受け取ればいいのだが、そう簡単にはいかない。進行するにつれ筆者も英語脳に切り替わってきた。喜んでいたのも束の間、大会終了とともにフェードアウトしたのは悲しい。

英語脳の集中力は長くは続かない。審査員にも聴衆にも休憩の「間」が必要だ。その時間を利用し廊下で準備をする生徒もいた。監督する指導教師の熱心さに感心しながら、筆者は腰を伸ばすため階段昇降していた。

教育文化会館の２Ｆに中野北溟記念室[1]を見つけた。百寿を越えた書道家の中野北溟氏が731点の書を寄贈したことで昨年４月にオープンした常設展示室だ。思い起こすと、筆者は中学時代に習字の授業を中野先生から受けていた。先生がダンスをするように書を書いていた。大事なのは、実際の字（実画）だけでなく字画の間の流れ、つまり「空画」が大事と熱弁を振るっていた。ただし、「実画」が上達しない無才能の者には、その意味すらも理解できなかった。自由創作の時間があり「煙」の文字を選んだ。細身の筆で薄墨を使い、細長にして空に立ち上るように、空画を生かしてフラフラと書いた。これで初めて○をもらい教室の掲示板に貼られたのだ。最初で最後の事件（？）なので脳裏に刻まれていた。「空画」の言葉も残っていた。また、ある和菓子屋で額に納められ書を発見した時は懐かしかった。どらやきの袋の字もそうだ（**写真**）。別の機会に、ある琴の社中のプログラムに先生の揮毫があった。千歳鶴のラベルも、「柴田」の一升瓶のラベルも先生の書なのだ。ただ、最近「柴田」が入手困難となって残念だ。

音楽における「間」は、中学生の音楽教材によると、「拍の頭から次の拍の頭までの時間的な距離。休拍や休止部分を指すこともある」とあり、英語でもrest、文字通り「休み」という扱いだ。

ただ、音楽的には休符は単なる休みではなく、無音の音を出す。日本音楽能力検定協会の定義では[2]、休符は“音を出さない時間”だが、音楽を音楽たらしめる要素という。リズムの呼吸「音」との対比、グルーブ感、つまりノリを生む。ライブ演奏でも必ずしもリズムは一定ではない。休みやタメを作ることで表現の幅も拡がる。だから、楽曲のサビ前に休みを入れたり、曲のテンションを下げたり、最終的にサビへつなげる。

ベートーベンの「運命」の冒頭のように、休符が入ることが「圧」を生むという。頭の中で冒頭の音を想起してみた。

♪ジャジャジャジャーン　ジャジャジャジャーン♪　その後全休符二個

演芸にも「間」が大切である。落語や講談、演劇でも会話の流れやテンポにおいて、間の取り方で熟練度が評価される。「笑点」の元司会者の桂歌丸によると、噺家にとって「大事なものは『間』で、弟子に噺は伝えても『間』は伝えられず、これは自分でこしらえるしかない」と言っている[3]。間はリズムを作り、相手に考える時間を作る。そして情景を思い浮かばせ、沈黙を楽しむことで、話を理解し共感できる状態を作り上げるのである。

一方、「間」が長くなると「間延び」する。その一例が電子カルテだ。１コマンドに対しての反応時間が長く、日本語変換が遅れる。筆者の思考の流れが淀み、結果的に診療時間の延長につながる。パソコン並みのスピードを期待する方が悪いと、こちらが譲歩すべきなのか。本来、漫才のように相互の働きかけの間があって仕事の効率が上がる。画像データは画素数が多く、閲覧まで処理時間がかかることは理解できるが、処方の方がむしろ遅い。電子カルテは独自の「間」を持ち、決して譲歩しない。結果的に人間を従わせるから、使い手のストレスだけ増す。それは「間」違いだ。

スポーツでは、持ち前の力を発揮するため、間を「ため」へ移行させる。ゴルフや野球のバッティングなどにも大切な点で、実力がさらに熟成される。

ところで、間が上手に取れないことを「間抜け」という。語源をたどると、間は演芸の場での時間の休止、長短、さらに拍子やテンポの意味で、「間抜け」はテンポが合わないこと。転じて、行動に抜かりがあり愚鈍な人を罵る言葉になった[4]。

多職種間の関係構築のためにもコミュニケーションが要となるが、その際も「間」は大事な要素だ。今後も間抜けにならないよう、さらに円滑にする「ため」につなげていきたい。

＜参考＞

１）中野北溟記念室／札幌市
２）【休符の美学】音楽における休符の重要性をジャンル別に解説／日本音楽能力検定協会
３）vol. 022「落語家にとって一番大事なのは「間」」 - PLAZA INTERVIEW
４）間抜け／まぬけ - 語源由来辞典

ブルースリー物語　その３

帯広市医師会
帯広中央病院
吉田（よしだ）　貢（みつぐ）

実戦ケンカの達人で、日々の鍛錬に勤しむリーだったが、本人の意識では、自分はあくまでも俳優であり、国籍のあるアメリカでも、格闘家としてではなく、俳優として身を立ててゆくつもりだった。

しかし当時のアメリカメディアの東洋人に対する人種差別は著しく、無名のリーに、そのチャンスはなかった。そこで当座の生活として、リーの実力を知る周囲の道場主たちの助けもあり、1962年、リーは22歳という若さで、シアトルに自分の道場である振藩（ジュンファン）國術館を開設したのである。

もちろんリーは、アメリカでも俳優として成功できる自信があったが、現状からまずは、自分は中国武術の達人であり、米国では未だかつて誰も見たことがないようなアクションができることを映画やテレビ関係者へ売り込むことから開始した。結果、1963年の夏に、有名なロングビーチ国際空手選手権大会に招待され、映像取材を受けることに成功して、ワン・インチ・パンチや二本指片手腕立て伏せなど、空手との差別化を意識した技を披露している。

一方、前述のようにカリフォルニアの中国武術家たちは道場経営の一環として、テレビ、ラジオなどの地元のマスコミも利用して宣伝活動をしていた。

全米テレビの出演でリーの道場は一躍有名となったが、「あの野郎、世話してやった俺たちを差し置いて自分だけ全米テレビで抜け駆けかよ！」恩を仇で返された道場主たちは腹の虫が治まらない。

だがプライドの高いリーに何か言っても、ならば武術家同士、決着は試合でと言われるのがオチだ。そこで北派拳法の達人として知る人ぞ知るウォン・ジャックマンに白羽の矢を立てた。華僑の多くは、福建や広東など中国の南方から海外に渡っており、「南拳」の使い手がほとんどで、北京を中心とする北派の武術を伝える人は、当時珍しく、リーは彼の実力を知らず挑戦を受けるだろうと考えたからだ。

さて、現在の中国武術は空手のような徒手空拳の技というイメージが強いが、それはブルースリーの映画のせいであり、本来は日本の古武道のように、鎧を着て、刀、剣、槍などで戦う総合武術であった。また、甲冑を着ている者同士が戦うので、徒手空拳の技も大きな動作で力強く行う必要があり、身軽な平服で素早く動く現在の格闘技やケンカにおいては、武器を持たないと不覚を取る場合もあり、中国人はケンカとなると、すぐに青龍刀を振り回す輩も多い。

ただし、少林寺の僧侶は殺生を嫌い刃物は使わず、徒手空拳で平服の暴徒を制する「少林拳」の動きは十分にケンカ用と言えるだろう。18世紀に大清帝国が中国を統一して平和になると、多くの武術流派も武器ではなく、徒手空拳を前面に押し出して来た。

日本では、1970年代に毛沢東が広めた、ゆっくりと動く健康太極拳が有名であるが、本来の太極拳は「北派少林拳」を破るために開発されたという伝説すらある、徒手空拳の戦いに秀でた実践的な武術である。その例証として、19世紀の北京で太極拳を広めた「楊露禅」は「楊無敵」とも呼ばれ、他流試合では無敗の実戦名手として有名であった。

リーは幼い頃に父から太極拳を勧められたが全く興味を示さなかった。一方、ケンカに明け暮れていた10代の頃、詠春拳の動きを見て、これは格闘技に使える動きだと即座に理解して入門した。破門後も詠春拳の技をケンカ用に取捨選択して、創意工夫も加え、オリジナルの振藩功夫を名乗ったのである。

ウォン・ジャックマンは太極拳の使い手であり、形意拳と北派少林拳もマスターしていた。その彼を道場主たちはそそのかしたのである。ブルースリーは、「中国の伝統武術は、格闘技やケンカでは使えない技の型練習に明け暮れ、踊りのように套路を演じても闘いには何の役にも立たない。自分の振藩功夫が最も実戦的だ。ウソだと思うのなら誰でもかかってこい。受けて立つぞ！」と天狗になって吹聴して困っている。北派伝統武術の技を示し、リーの誤りを正してくれ、とジャックマンに頭を下げた。

カンフー映画によく出て来るシナリオで、中国人の常套手段だ。ジャックマンが勝てば、「ブルースリーめ、ざまあ見ろ！」となり、リーが勝てば南拳が北派より優秀だと宣伝になる。どちらに転んでも、この策略を立てた道場主たちが損をすることはない。

1964年の秋に、真偽を確かめるためジャックマンは、前もってリーに手紙で道場への訪問を申し込み、リーが了承したので、彼の道場を訪れた。

ところがリーは「（あれはマスコミ用のセールストークで）ずいぶんと盛られてしまって、武術家の皆様には誤解を招き、誠に遺憾である」と返答し、言われていたような好戦的な態度では全然なかった。

どうも話が違うなと感じたジャックマンは、そのまま帰ろうとしたが、道場のドアの鍵が閉められてしまう。どうしても彼らを対決させたい、この策略を仕掛けた連中の仕業で、カンフーのしきたりで、リーは戦わざるを得なくなったのである。

ブルースリーは詠春拳の動きで攻撃を開始するも、ジャックマンは自分が嵌められたことに気付いたので、道場主たちの依頼は尊重しつつ、リーのメンツも考え、形意拳や少林拳で彼を攻撃することは避け、太極拳の化勁でリーの攻撃をいなして、彼が疲れて攻撃が止まるのを待った。（つづく）